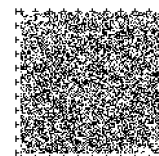


VISION 2025

ACTION BOOK Version up

世界陸上・デフリンピック
ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ



はじめに

2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染症の流行という困難の中にあっても、世界中の多くの方々のご協力の下で安全・安心に開催することができました。この大会では、スポーツの素晴らしさを改めて皆で共有し、サステナブルな社会への道筋を示しました。ボランティア文化の定着など、多くのかげがえのないレガシーが生まれています。

スポーツ、とりわけ世界中のアスリートが一堂に会する国際スポーツ大会は、社会をより良く、より輝かせる力を持っています。2025年に東京で開催される2つの国際スポーツ大会、世界陸上とデフリンピックでは、東京2020大会のレガシーをしっかりと受け継ぎながら、明るい未来への歩みを加速させていきます。

一昨年2月には、東京都が目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめ、「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するという目標を掲げました。昨年1月には、その取組指針となる「アクションブック」を策定しています。本書は、両大会の開催が目前に迫る中、この「アクションブック」の内容を充実させ、両大会を通じた取組や、その中で創出されるレガシーを体系的にお示ししたものです。

「TOKYO FORWARD 2025」の理念の下、大会の成功とその先の未来に向け、皆様と共に全力で取り組んでまいります。

令和7年1月31日 東京都知事

十世百合子



大会の基本情報

世界陸上競技選手権大会

- ワールドアスレティックス（WA）が主催し、2年ごとに開催
- 第1回は、1983年にフィンランドのヘルシンキで開催
- 2025年の大会は、20回目の大会
- 世界で約10億人が視聴、3,000人規模のボランティアが参加
- 東京での開催は1991年大会以来。日本での開催は2007年大阪大会を含めて3回目

東京2025世界陸上

開催期間	: 2025年9月13日～21日（9日間）
種目の数	: 49種目
選手の数	: 約200か国・地域、約2,000人
競技を行う会場	: 東京・国立競技場 （マラソン・競歩は東京都内で実施）
招致した団体	: （公財）日本陸上競技連盟
大会運営組織	: （公財）東京2025世界陸上財団



東京2025世界陸上大会ロゴ

デフリンピック

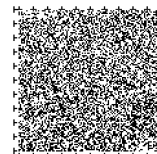
- 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年ごとに開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年にフランスのパリで開催
- 2025年の大会は、100周年の記念すべき大会。日本では初めての開催
- 手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴

東京2025デフリンピック

開催期間	: 2025年11月15日～26日（12日間）
競技の数	: 21競技（陸上や水泳など）
選手の数	: 70～80か国・地域、約3,000人
競技を行う会場	: 主に都内会場（サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施）
招致した団体	: （一財）全日本ろうあ連盟
大会運営組織	: （一財）全日本ろうあ連盟 （公財）東京都スポーツ文化事業団



東京2025デフリンピック大会エンブレム



両大会がもたらすもの

世界陸上

世界のトップアスリートが集う陸上競技の祭典



©フォート・キシモト

- ◆世界最高レベルの熱戦がスポーツの喜びや楽しさを届ける
- ◆約10億人が視聴する世界陸上は、全世界に都市の魅力を発信する好機

デフリンピック

デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会



©一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

- ◆障害のあるなしなどにかかわらず、誰もがスポーツを楽しむ素晴らしさを伝える
- ◆互いの違いを認め、尊重しあう社会への歩みが加速

東京2020大会で生まれた
かけがえのないレガシーを
未来へつないでいく

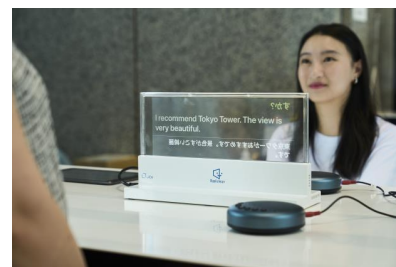


環境先進都市への歩み

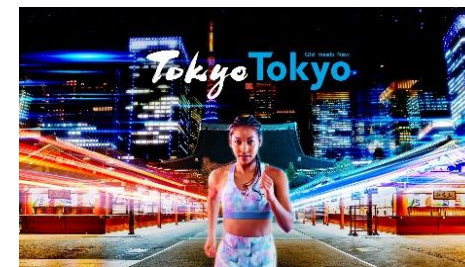


ボランティア文化の
さらなる根付き

大きな価値を持つ両大会を
東京の新たな活力に



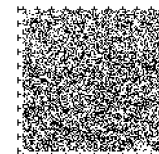
ユニバーサルコミュニケーションの
促進



大会を通じた
東京の魅力発信



世界陸上・デフリンピックの開催を
東京がステップアップする契機とし、
スポーツの力で未来を切り拓いていく



Road to 2025



ビジョン2025

都の長期戦略を踏まえ、両大会を通じて都が目指す姿をまとめた基本方針（5つの柱）



アクションブック

ビジョン2025の実現に向け、取組の方向性や主な内容などをまとめた指針



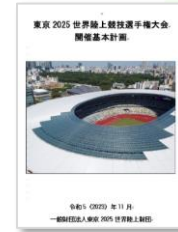
バージョンアップ
(本書)

2022

2023

2024

2025



開催基本計画

各大会の方針や大会運営の考え方などを示した計画

◆東京2025 **世界陸上**

日程：2025年9月13日～21日
会場：国立競技場ほか

◆東京2025 **デフリンピック**

日程：2025年11月15日～26日
会場：主に都内会場
(一部競技は福島県・静岡県)

全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ

具体的な取組の指針

3

つのConcept

- ◆ 東京2020大会のレガシーを継承・発展
- ◆ 両大会一体となってウェルネスの向上や社会変革を推進
- ◆ 2025年を機に、東京に新たなレガシーを創出

Sports

+

10

プロジェクト – 両大会を機にウェルネスを向上

P.11~

【スポーツの価値を再認識】 – 推しスポーツProjectの展開

のAction – 両大会を社会変革の推進力に

P.15~

【みんながつながる】 – ユニバーサルコミュニケーションの促進

Action 1 大事な情報、伝える工夫

Action 2 デジタルで拓く東京の未来

【世界の人々が 出会う】 – 「TOKYO」の魅力発信

Action 3 芸術文化に触れ、感じる

Action 4 世界に東京の魅力をPR

【こどもたちが 夢をみる】 – 子供たちの大会への参画

Action 5 2025 for キッズ

Action 6 2025 with キッズ

【未来へつなぐ】 – 持続可能性の取組

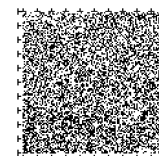
Action 7 みんなで守る、みんなの環境

Action 8 共に生きる未来を創る

【みんなで創る】 – 力を合わせて大会を形作る

Action 9 Make it together 2025

Action 10 知って、楽しんで、応援しよう！



東京2020大会がつなぐバトン

2020

2025



ハード・ソフトの両面で
東京のバリアフリーが
大きく進展

- ・ 鉄道駅のホームドア整備
- ・ 心のバリアフリーの推進



「いつでも・どこでも・誰とでも」
公共施設や駅などにおける
ユニバーサルコミュニケーション
の促進

P.16~



都市鉱山（小型家電）
から製作したメダルなど
サステナブルな取組を展開



次世代型ソーラーセルやSAF
（持続可能な航空燃料）の活用、
ボトルtoボトルリサイクルの推進

P.34~



Tokyo Tokyo FESTIVAL
（都の文化プログラム）
5年間で約16万件を展開
し、約3,900万人が参加



TOKYO FORWARD 2025
文化プログラムとして、
3つのアートプロジェクトを
新たに展開

P.22~

Light and Sound Installation "Coded Field" (2019)
©写真提供：ライゾマティクス

2020



2025



全国の小学生の投票で
大会マスコットを決定



両大会のロゴ・エンブレムや
メダルデザインなど、
大会のシンボル制作に
子供たちが参画

P.30~



ボランティア文化が日本に
根付く、大きな転機に



両大会合計で約6,000人の方々が
ボランティアとして参画

P.40~

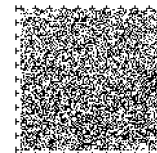


東京2020大会を通じた
スポーツ気運の高まり



「推しスポーツ Project」により、
スポーツへの関心を
さらに高めていく

P.12~



Contents

総論 …… 002 – 010

【Sportsプロジェクト】

推しスポーツProject …… 011

【10のAction】

みんなが つながる …… 015

Action 1 大事な情報、伝える工夫

Action 2 デジタルで拓く東京の未来

世界の人々が 出会う …… 021

Action 3 芸術文化に触れ、感じる

Action 4 世界に東京の魅力をPR

こどもたちが 夢をみる …… 027

Action 5 2025 for キッズ

Action 6 2025 with キッズ

未来へ つなぐ …… 033

Action 7 みんなで守る、みんなの環境

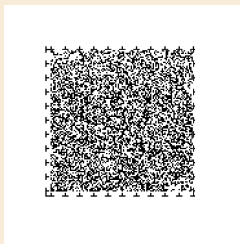
Action 8 共に生きる未来を創る

みんなで 創る …… 039

Action 9 Make it together 2025

Action 10 知って、楽しんで、応援しよう！

推しスポーツProject



推しスポーツProject

【目指す姿（レガシー）】

- スポーツの楽しさを知り、継続的に関わることで、心身の健康や生き生きとした暮らしの実現など、都民の健康長寿・ウェルネスの向上を推進



【プロジェクトの概要】

- ◆世界陸上・デフリンピックの開催を機に、スポーツを「する・みる・支える・応援する」の視点から、様々なスポーツに親しむ機会を創出
- ◆「都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ（推しスポーツ）」の発見を支援



「推しスポーツProject」公式ロゴマーク

- ・「様々なスポーツの中から推しスポーツを見つけよう」という事業趣旨をイメージ
- ・東京都スポーツ推進大使「ゆりーと」を中心に、様々なスポーツ（パラスポーツ含め18競技）のイラストで構成

プロジェクトの
詳細はこちら↓



ウェブサイト内のイベントカレンダーでは、都や区市町村、関連団体などの取組やイベント情報を提供

推しスポーツProject

【「推しスポーツ」の発見・実施を後押しする3つの取組】

子供たちに多様なスポーツ体験を！

1 キッズスポーツプログラム

アスリートとの交流や子供（親子）向けスポーツ教室など、スポーツを体験できる機会を通じて、子供たちの成長を支援



スポーツで、いつまでも健康に！

2 健康長寿プログラム

体力測定に基づく運動指導や、シニアを対象とした交流会など、スポーツを通じた健康増進やフレイル予防、仲間づくりを促進



スポーツの面白さを発見！

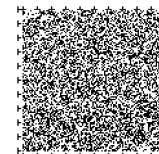
3 Let's enjoy sports !

各種大会や体験会、試合観戦、ボランティアなど様々な機会を通じて、スポーツやレクリエーションに触れ、楽しさ・面白さを体感



<取組事例の紹介>東京スポーツドック（健康長寿プログラム）

- 体力・体組成測定結果や体力年齢をアプリを通じてフィードバックし、結果をもとに健康アドバイスを実施するなど、健康づくりのきっかけの場を提供
- いつまでも健康に過ごすために、シニア世代以前から、スポーツを取り入れた生活が送れるよう支援



Topic

スポーツへの多様な参画方法

「する・みる・支える・応援する」

スポーツには、様々な参画方法があります。

野球やランニング、気晴らしの散歩など、スポーツを「**する**」。

現地やテレビなどでアスリートや友人が行うスポーツを「**みる**」。

ボランティアや審判、コーチなどとしてスポーツを「**支える**」。

そして、スポーツを「**応援する**」ことは、「する」「みる」「支える」の入り口となる参画の方法といえます。

「推しスポーツProject」では、それぞれの方法でスポーツに参画する機会を創出することで、都民一人ひとりが好みや特性に合ったスポーツの楽しさ＝推しスポーツを見つけるとともに、スポーツによって、より充実感・幸福感を得られるよう支援していきます！



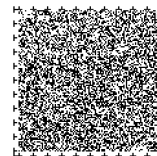


みんなが つながる

ユニバーサルコミュニケーションの促進

Action 1 大事な情報、伝える工夫

Action 2 デジタルで拓く東京の未来



Action 1 大事な情報、伝える工夫

【目指す姿（レガシー）】



- 両大会をモデルとして、今後のスポーツ大会における情報保障が充実
 - ・競技会場での案内が分かりやすくなり、素早く、正確に情報が伝達
 - ・日々進化する技術の活用により、各大会の情報保障が充実
- 誰もがより簡単に、必要な情報を受け取れる社会の実現に向けた歩みが加速
 - ・スポーツ施設や公園、駅などにおける情報バリアフリーが進展
 - ・様々なサポートにより、障害のある人などの生活利便性が向上



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆東京2020大会で使用された技術を含めて、情報保障につながる様々な技術を大会で活用
- ◆デフリンピック競技会場（都立）のアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進



アクセシビリティ設備の例
(光警報装置)

Action 1 大事な情報、伝える工夫

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

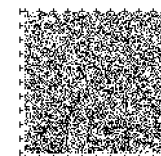
◆両大会における情報保障

- ・競技会場での案内や掲示などにビジョンやサイネージを活用し、誰もが分かりやすい方法で表示
- ・東京2020大会で使用された多言語同時翻訳などの技術を両大会の全競技会場で活用するとともに、国際手話人材の育成にも取り組み、選手や関係者の円滑なコミュニケーションをサポート

◆誰もが暮らしやすい社会へ

- ・東京2025デフリンピック競技会場（都立）に集団補聴設備などのアクセシビリティ設備を整備するとともに、日比谷公園をケーススタディとして、都立公園における窓口対応などを支援する音声認識システムの導入や、新たな情報ツールの活用を検討
- ・外国の人をはじめ、子供やお年寄り、障害のある人など誰にも伝わり、分かりやすい「やさしい日本語」の普及に向け、イベントや用語集・イラスト集などを通じて発信
- ・誰もが使いやすい駅づくりの実現に向け、「音声の文字化サービス」を始めとしたユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の導入支援や、先進技術の導入を促進する仕組づくり、都民に分かりやすい情報発信を実施
- ・きこえない・きこえにくい人の生活利便性向上のため、スマートフォンの活用支援や、都営地下鉄車内におけるドア開閉表示灯の設置拡大などの取組を実施
- ・移動や訪問先でのコミュニケーションを支援するスマートフォンアプリを活用した、障害のある人などの外出をサポートするスマートサービスの実証
- ・手話言語の普及促進や都庁舎などでの遠隔手話対応、国際福祉機器展などにおけるPR、都内施設のバリアフリー情報の発信などの取組を展開

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
両大会における情報保障	両大会の情報保障の充実にに向けた検討・準備 → デフリンピックに向けた国際手話人材の育成（講習会受講費用の助成） → R5：172人		<円滑な大会運営> ・全競技会場での技術活用 ・国際手話人材が活動
誰もが暮らしやすい社会へ	デフリンピック競技会場（都立）のアクセシビリティ設備整備 → 駅におけるUC技術導入支援 R6：6社175駅 → スマートサービスの実証 R6：2回（西新宿）		デフリンピック開催 (UC技術導入駅の拡大) → R7：1回（西新宿+新エリア）



Action 2 デジタルで拓く東京の未来

【目指す姿（レガシー）】



- UC技術の有用性や将来性などが社会に認知され、企業の技術開発などが活発化
- 国籍や障害などにかかわらず、誰もが分け隔てなくコミュニケーションを取ることができる技術が普及

<UC技術の例>

- ・多言語同時翻訳機能付きのディスプレイやタブレット
- ・発話内容などがリアルタイムに多言語で字幕表示されるスマートグラス



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆民間企業等と連携したUC技術の開発
- ◆様々な機会を捉えた技術実証や活用促進
- ◆両大会での技術活用などを通じた国内外への発信



競技音を擬音で表示する技術

Action 2 デジタルで拓く東京の未来

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

◆民間企業等と連携した新たな技術の開発

- ・スタートアップピッチコンテスト優勝企業と連携し、競技音を擬音で表示する技術を開発するとともに、様々な技術を東京2025デフリンピックの観戦などに活用
- ・「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」において、スマートグラス上に発話内容などを多言語で表示する技術を開発

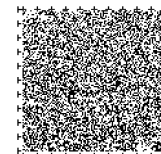
◆様々な機会を捉えた技術の実証や活用促進

- ・「みるカフェ」（デジタル技術で言語を見える化したカフェ）の実施や展示会への出展
- ・スマートグラスによるきこえない・きこえにくい人向けサービスや外国人観光客向けサービスの実証
- ・都庁舎や都営地下鉄駅の窓口などにUC技術を導入
- ・区市町村や駅などにおけるUC機器導入を支援

◆国内外への発信

- ・両大会の全競技会場でUC技術を活用し、その様子を広く発信
- ・東京2025デフリンピックにおいて、運営や輸送、選手同士の交流など様々な機能を集約し、多くの人々が楽しめる拠点となる「デフリンピックスクエア」で、先端技術の開発や社会課題の解決に取り組むスタートアップなどの多様な技術を体験できる展示・PRゾーンを展開

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
民間と連携した技術開発	スタートアップと連携した技術開発		各種技術のデフリンピックでの活用
技術の実証・活用促進	UC技術の導入（支援）	〔 都有施設窓口 R6：41施設 区市町村 R6：6自治体 〕	（新規施設への導入（支援））
国内外への発信			・全競技会場でのUC技術活用 ・デフリンピックスクエアでの技術の展示・PR



Topic

デジタル技術でスムーズなコミュニケーションをサポート

ユニバーサルコミュニケーション技術

ユニバーサルコミュニケーション技術。

それは、あらゆる人の間でのコミュニケーションを支援する技術です。

例えば、音声言語がリアルタイムで多言語に翻訳・文字化されるディスプレイ。観光で来日した外国の人や、きこえない・きこえにくい人などとのコミュニケーションをサポートします。近年実用化が進んできた技術であり、都庁舎の総合窓口など、様々な場所への設置が広がっています。

こうした技術が街中にあふれた、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながる街・東京。

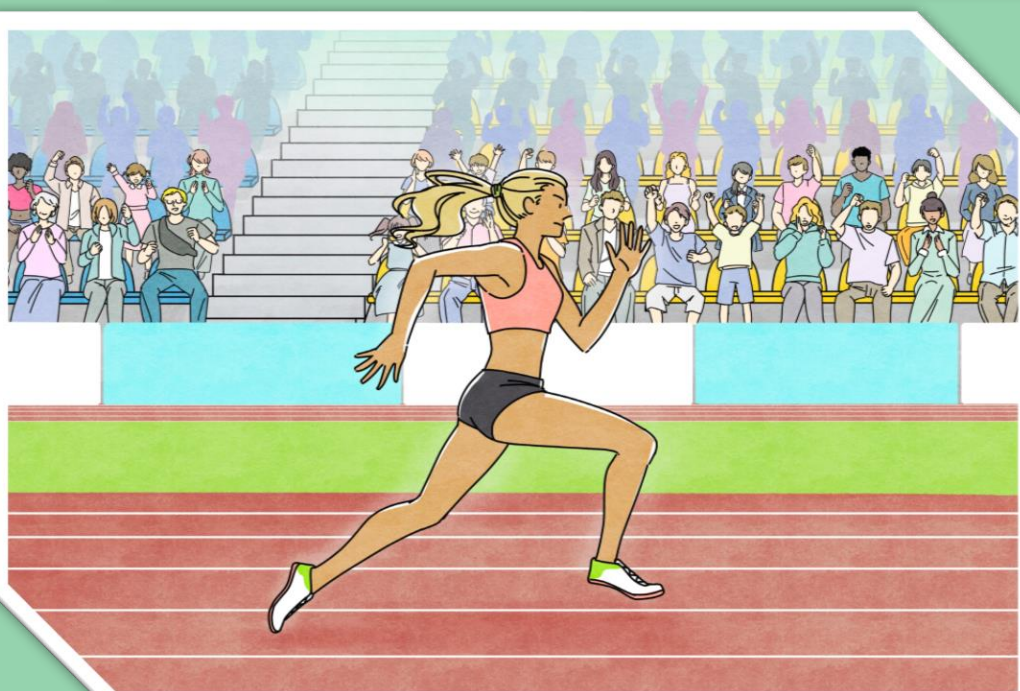
大会をきっかけに、その実現に向けた歩みを加速させていきます。





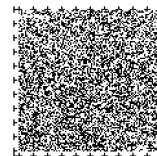
世界の人々が出会う

「TOKYO」の魅力発信



Action 3 芸術文化に触れ、感じる

Action 4 世界に東京の魅力をPR



Action 3 芸術文化に触れ、感じる

【目指す姿（レガシー）】



- 芸術文化へ親しみを持つ人が増加するとともに、障害のあるなしにかかわらない芸術文化活動の実施事例が蓄積
- きこえない・きこえにくい人や外国の人などに対する鑑賞サポートの提供機会が社会全体で増加するとともに、ノウハウの蓄積や人材育成などが進み、継続的な取組に向けた土台が構築
 - ・手話言語通訳付きの鑑賞ツアーや音声ガイド、「やさしい日本語」対応など



<鑑賞サポートの例>
手話言語ナビゲーター付きコンサート

【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆東京2020大会の文化プログラムを継承・発展させた新たなアートプロジェクトを展開
- ◆誰もが芸術文化を楽しめるよう、芸術文化へのアクセシビリティ向上に向けた取組を実施



Action 3 芸術文化に触れ、感じる

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

◆3つのアートプロジェクト「TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム」

- ・誰もが気軽に芸術文化を楽しめ参加できる取組として、「まつり」をテーマとしたイベント「TOKYO わっしょい」を開催。様々なまつりの見どころを凝縮したパフォーマンスなどを披露することで、一体感を創出
- ・「ろう者とろう文化に対する社会的認知」と「ろう者と聴者が互いに共通理解を図ること」を目的に、ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」を創作。また、きこえる人ときこえない人が相互理解を重ねながら創作する過程を記録し、協働のモデルケースとして発信
- ・東京2020パラリンピック開会式のキャスト・スタッフが集い、新たな仲間を加えた舞台「TRAIN TRAIN TRAIN」を創作

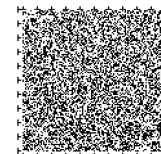
◆芸術文化へのアクセシビリティ向上

- ・公演などの鑑賞を支援するツールの導入や、情報保障付きプログラムの拡充などを推進
- ・令和6年度は、民間文化施設などでの鑑賞サポート提供経費への助成事業（東京芸術文化鑑賞サポート助成）の創設や、手話言語を使った鑑賞体験をサポートできる人材を育成する研修プログラムの開講などを実施。また、鑑賞サポートの提供ノウハウなどに関する講座の開講や、専門団体などと連携した相談対応も実施
- ・都立文化施設や助成事業等における取組内容や成果を周知・発信

◆大会関連施設での文化発信

- ・大会期間中、選手や関係者へ、日本の伝統を感じられる文化体験などの機会を提供

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
アートプロジェクト	企画内容検討 9/14 「TOKYO わっしょい」 プレイイベント● 9/22 「TRAIN TRAIN TRAIN」 制作発表 「黙るな 動け 呼吸しろ」 公開ワークショップ	実施内容の調整やPRなど	● イベント開催 （「TOKYO わっしょい」は9月、 その他は11月予定）
アクセシビリティ向上	企画内容検討	都立文化施設や都の文化事業の環境整備、 東京芸術文化鑑賞サポート助成 など	
大会関連施設での文化発信		企画内容検討	大会期間中の関連イベントや デフリンピックスクエアなどで 様々な文化関係の取組を展開



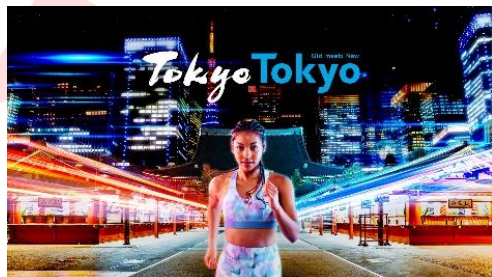
Action 4 世界に東京の魅力をPR

【目指す姿（レガシー）】



○食・江戸の歴史や文化・ナイトタイム・アニメなど、東京の持つ多彩な魅力を効果的に発信し、訪都旅行者数の増加などに貢献

○東京のスタートアップが持つ多様な技術を世界に発信し、その成長に寄与



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆国内外から大きな注目が集まる両大会開催の機会を捉え、大会に関連する様々な場面で東京をプロモーション
- ◆両大会においてスタートアップの技術を活用するとともに、その状況を国内外へ発信



世界陸上ブダペスト大会での東京PR

Action 4 世界に東京の魅力をPR

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

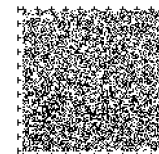
◆様々な場面で東京をプロモーション

- ・東京2025デフリンピックの選手団団長セミナー（大会1年前に、各国選手団の団長が集まる会議）において、東京産食材の提供や都伝統工芸品の贈呈、東京の観光資源などのPRを実施
- ・東京の魅力を国内外にPRするアイコン「Tokyo Tokyo」を活用し、東京2025世界陸上の競技会場（国立競技場）内への広告掲出や、両大会主要会場最寄り駅及び観光PR効果の高い空港・駅などにおける装飾、大会関係者へのノベルティギフトの提供など、様々な取組を展開
- ・大会関係者を対象に、都内観光ツアーや文化体験プログラムを実施するほか、東京産食材や島しょ製品の紹介・提供、東京の多様な銭湯の魅力発信などの取組を展開
- ・特設ウェブサイトやオンライン広告、機内誌、SNSなど多様な媒体を通じたプロモーション
- ・東京2025世界陸上において、大会ロゴや大会メインカラーなどに「東京」の要素を取り入れるとともに、マラソン・競歩では東京の魅力や歴史、文化などを感じられるコースを設定するなど、大会を通じた様々な場面で「東京ブランド」を発信

◆スタートアップの技術を活用

- ・東京2025デフリンピックにおける競技音を擬音で表示する技術の活用や、デフリンピックスクエアでのスタートアップなどの技術を体験できる展示・PRゾーン設置などの取組を展開するとともに、東京2025世界陸上の大会運営にスタートアップの技術を活用するなど、スタートアップの成長に寄与する取組を展開

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
東京のプロモーション	●世界陸上ブダペスト大会でのPR 機内誌などへの広告展開（両大会1年前）● デフリンピック選手団団長セミナーでのPR●	特設ウェブサイトでのPR →	<大会開催時を中心とした取組> ・国立競技場内への広告掲出 ・主要会場最寄り駅などの装飾 ・大会関係者へ観光や食などをPR
スタートアップの技術を活用		世界陸上での活用 → 公募・選定・技術の活用	活用状況発信 デフリンピックスクエアでの展示・PR●



Topic

東京2020大会の文化プログラムを継承・発展

TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム

東京2020大会の文化プログラム。都は「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打ち、5年間で約16万件の多彩なプログラムを展開。世界中から約3,900万人が参加し、より多くの人々が芸術文化に親しむ環境が整い始めるなどのレガシーを残しました。

世界陸上とデフリンピックが開催される2025年には、これを継承・発展させた新たな文化プログラムとして、**3つのアートプロジェクト**を展開。東京の持つ芸術文化の魅力を発信するとともに、文化の面から両大会を盛り上げていきます！

「TOKYO わっしょい」



都内の祭り団体や伝統芸能団体によるパフォーマンスイベント。2025年9月12日～14日、東京駅前の行幸通りで開催します。東京の「まつり」が大集合する、見どころ満載の3日間です！

ろう者と聴者が遭遇する舞台作品 「黙るな 動け 呼吸しろ」



ろう者にとってのオンガク、聴者にとっての音楽を探究し、言葉や文化が異なる両者が創作の場で遭遇する、日本手話と日本語によるオリジナルストーリーで上演される日本初の舞台作品です。2025年11月29日、東京文化会館にて上演

「TRAIN TRAIN TRAIN」

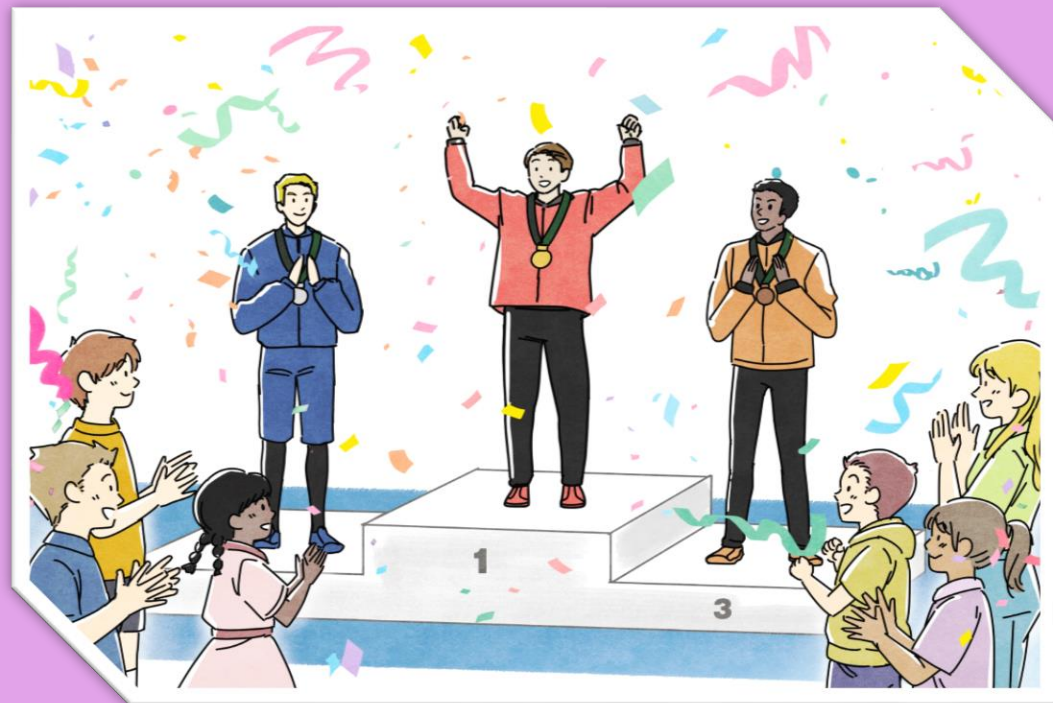


東京2020パラリンピック開会式のキャスト・スタッフによる新作舞台作品。車いすの少女が不思議なSLと旅をする冒険譚を、身体表現に音楽、言葉を交えて綴ります。2025年11月東京芸術劇場にて上演



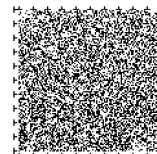
こどもたちが夢をみる

子供たちの大会への参画



Action 5 2025 for キッズ

Action 6 2025 with キッズ



Action 5 2025 for キッズ

【目指す姿（レガシー）】



○子供たちが、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしなどにかかわらず互いの違いを認め尊重しあうことの大切さ、多様性などを学び、健やかに成長



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆大会関連イベントやスポーツイベントにおける子供向けコンテンツの充実
- ◆大会を契機とした聴覚障害の理解啓発やデフリンピック教育など学校教育における様々な場面で学びを提供



学習コンテンツ「学ぼう！デフリンピック」

Action 5 2025 for キッズ

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

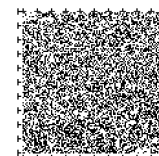
◆スポーツの素晴らしさを子供たちに

- ・イラストを活用した特設ホームページやSNS用のスタンプ、大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど、子供たちをはじめ、誰もが両大会の魅力を感じられる取組を展開
- ・子供を対象としたアスリートとの交流会や走り方教室など、子供が様々なスポーツを体験できるイベントなどを展開。東京2025世界陸上期間中には、国立競技場を会場とした子供向けの陸上教室や競技体験などを実施
- ・デフリンピック学習コンテンツ「学ぼう！デフリンピック」や、陸上競技の解説や上達するためのトレーニングを紹介する冊子（スポーツドリル（仮称））を作成し、都内小学4～6年生へ配布

◆学校における学び

- ・ろう学校にデフアスリートを招き競技体験や講演などを実施
- ・東京2025デフリンピック開催時の、海外のきこえない・きこえにくい人とのコミュニケーションや、ボランティアなどとしての参加を見据え、ろう学校で国際手話などのコミュニケーションスキルを身につけるための特別授業を実施
- ・盲学校でのパラスポーツやろう学校でのデフスポーツを実施するため、各校における競技器具を充実
- ・聴覚障害やデフリンピックに関する映像教材を作成し、都内公立学校へ配信するとともに、公共施設のデジタルサイネージへも掲出
- ・学校が希望する体験機会を提供する「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」に、両大会に関連するプログラムを導入
- ・地域におけるパラスポーツ拠点の一つとして都立特別支援学校の活用を進めるため、バリアフリートイレの設置や体育器具の修繕など、各施設を整備・充実

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
大会などを通じた取組	「学ぼう！デフリンピック」の配布● 大会特設HPや大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど		●スポーツドリル（仮称）の配布 ●国立競技場での陸上教室など（大会期間中）
学校を通じた取組	ろう学校での競技体験・講演・特別授業など		
	映像教材作成	都内公立学校への配信（～R8年度末）、デジタルサイネージ掲出	
	（実施）	体験活動プロジェクト （充実）※大会関連含む。	



【目指す姿（レガシー）】



○大会にとって大切な役割を担う、アスリートと特別な時間を共有するなど、大会ならではのまたとない経験を通じて自信や勇気を培った子供たちが、明日の東京を創っていく



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆大会のシンボルとなる大会ロゴなどのデザインや、大会で展開していく取組などに子供たちの意見を反映
- ◆大会を通じた様々な場面に多様な子供たちが参画し、大会の一員として活躍



東京2025世界陸上公式マスコット
(デザインに子供の意見を反映、
ネーミング投票を実施)



東京2025デフリンピック
メダルデザインの投票

Action 6 2025 with キッズ

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

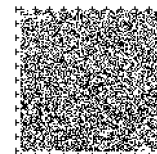
◆子供たちと創る大会

- ・大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレム、公式マスコット、メダルデザインを、アスリートや障害のある人、子供など様々な人々と一緒に制作
- ・大会で展開していく取組などについて、子供たちの意見も聴きながら検討
- ・東京2025世界陸上をテーマとして、小中学生によるワークショップを開催。「選手へ応援の気持ちを伝える取組」や「大会の運営に参加する取組」などについて意見を聴き、大会に関連する取組に反映

◆子供たちと大会を盛り上げる

- ・大会関連イベントなどで集めた子供たちからのメッセージを選手に届けるとともに、会場での盛り上げなどに活用
- ・臨場感あふれる会場での観戦を通じて、子供たちにスポーツの素晴らしさや夢と希望を届けるため、都内や被災地（岩手県・宮城県・福島県・石川県）の子供たちを両大会の競技観戦に招待
- ・東京2025デフリンピックにおいて選手入場時のエスコートキッズやメダルセレモニーの役割を子供たちが担うことや、東京2025世界陸上において子供たちが大会運営を体験する機会を提供するなど、子供や若者の参画を幅広く展開

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
子供たちの参画	世界陸上ロゴデザインの公募・選定 → ●デザイン発表（応募総数269作品） 世界陸上マスコットデザインへの 子供の意見聴取 ● → ●1月デザイン発表、2月ネーミング公表（公募） ●デフリンピック大会エンブレムの決定 デフリンピックメダルデザインの投票 → ●デザイン発表（投票総数80,543人） 子供たちから大会へのメッセージ収集 → 世界陸上こどもワークショップの開催 ●	●	●両大会開催時の参画 （競技観戦など）



Topic

子供たちの想いを、アスリートに届ける

メダルデザイン

アスリートの勝利の証、メダル。このメダルを子供たちと一緒に創りたい…そんな思いから、子供たちの想いをデザインに反映する取組を進めています。

東京2025世界陸上では、デザイン制作に先立ってジュニアアスリートへのインタビューを実施するとともに、次代を担う若手アスリートがデザイン選定委員会に参画。こうして制作されたデザインは、2025年6月に発表予定。お楽しみに！

東京2025デフリンピックでは、全国の小中高生が3つの候補から大会にふさわしいと思うデザインを選ぶ投票が実施されました。8万人を超える投票の結果、子供たちが選んだのは、選手が活躍し、大きく羽ばたいていくことを願った「みんなで羽ばたく」という折り鶴を取り入れたデザイン（右画像参照）。いくつもの線がまじりあう裏面のデザインは、世界の人とのつながりを表しています。

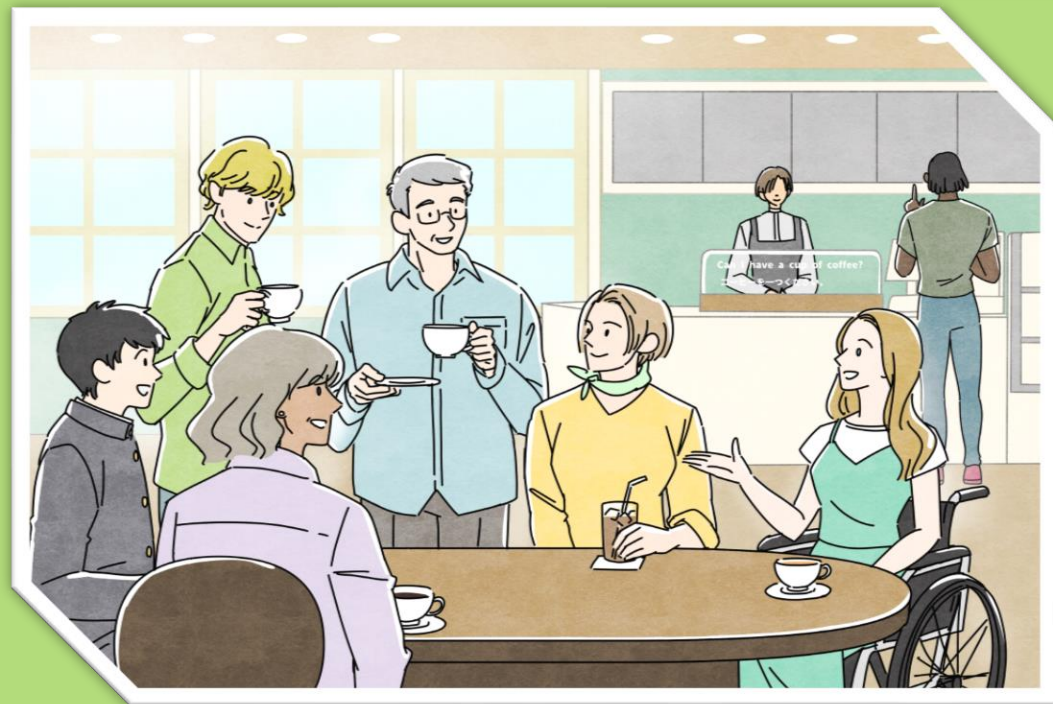


東京2025デフリンピック
入賞メダル



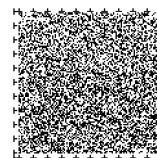
未来へつなぐ

持続可能性の取組



Action 7 みんなで守る、みんなの環境

Action 8 共に生きる未来を創る

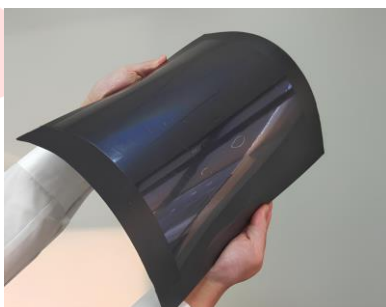


Action 7 みんなで守る、みんなの環境

【目指す姿（レガシー）】



- 両大会を通じて環境配慮に対する意識や気運が高まり、持続可能な社会への歩みを加速
 - ・省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの活用、3Rの推進、使い捨てプラスチックの削減などへの意識が向上
- 大会における暑さ対策などの取組を通じたノウハウや知見の蓄積



次世代型ソーラーセル



廃食用油を航空燃料にリサイクル



マイボトル

【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆両大会において、省エネルギーの徹底や使い捨てプラスチックの削減などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信
- ◆東京2025世界陸上における暑さ対策を推進



暑さ対策用休憩所のイメージ

Action 7 みんなで守る、みんなの環境

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

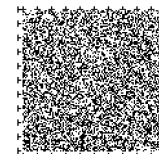
◆環境への配慮

- ・省エネルギーの徹底や3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進、フードロスの削減などに取り組む
- ・両大会において再生可能エネルギーを活用するとともに、国立競技場の周辺に次世代型ソーラーセルを搭載した庭園灯を設置するなど、先進技術の実証とPRを実施
- ・両大会において、マイボトルの推奨などを行っていくとともに、東京2025世界陸上では事業者とも連携してペットボトルの水平リサイクル（ボトル to ボトル）を実施するなど、使い捨てプラスチックの削減や高度な資源循環に取り組む
- ・区市町村などと連携し、東京2025世界陸上を契機とした廃食用油の回収キャンペーンを展開。回収した油から製造されたSAF（持続可能な航空燃料）が、選手が移動する際の航空機に使用されることで、移動に伴うCO2を削減するとともに、SAFを効果的にPR
- ・既存の施設や物品を最大限活用するとともに、新たに調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とする
- ・両大会のメダルケースに多摩産材を活用
- ・東京2025デフリンピックにおいて、表彰式で使用する表彰台やメダルトレイなどを再生可能な材料で作製するとともに、人や社会、環境のことを考えた「エシカル消費」を効果的に発信
- ・大会における象徴的な取組などを、広く国内外へ発信

◆暑さ対策

- ・東京2025世界陸上の路上競技沿道における観客の熱中症予防に向け、休憩所の設置や熱中症対策に関する普及啓発など、必要な対策を検討・実施することで、大会の暑さ対策を推進

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
環境への配慮		各種環境配慮の取組に関する詳細内容などの検討・調整	各種取組の実施 次世代型ソーラーセル搭載庭園灯の開発支援 大会で活用 設置の継続 廃食用油回収キャンペーン（世界陸上連携） ●大会で活用
暑さ対策		必要な対策に関する調査・検討	大会時に使用する休憩所（13か所予定）などの設置・運用



Action 8 共に生きる未来を創る

【目指す姿（レガシー）】



- 多様な価値観や文化について学ぶことに加え、実際に交流することなどを通じて相互理解が一層進み、共生社会の実現に向けた歩みが加速
 - ・障害理解の促進、外国の人が暮らしやすい環境の形成



障害者理解促進
キャラクター（都）

「すけだちくん」



東京都多文化共生ポータルサイト

【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆大会に関連するイベントやコンテンツなどを通じて、共生社会の大切さを積極的に発信
- ◆大会を契機とした多様な人々との交流イベントや、障害者理解に関する啓発イベントなどを展開



視覚で捉える新しい応援スタイル
「サインエール」

Action 8 共に生きる未来を創る

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

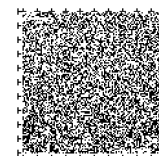
◆共生社会の大切さを発信

- ・デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用するとともに、デフアスリートの活躍やきこえない・きこえにくい人の社会活動などを紹介
- ・子供を含めた幅広い世代が手話言語に親しみを持てるよう、手話単語にふれることができる動画「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」や、デフリンピック学習コンテンツ「学ぼう！デフリンピック」を制作
- ・きこえない・きこえにくい人と一緒に視覚で捉える新しい応援スタイル「サインエール」を開発し、大会時の応援に活用
- ・心のバリアフリーに関するポスターコンクールや、心のバリアフリーに取り組む企業を「サポート企業」として登録・連携する取組などを展開
- ・誰にも伝わり、わかりやすい「やさしい日本語」の情報発信・普及啓発や、都内在住の外国人などに役立つ情報を発信する「東京都多文化共生ポータルサイト」の運営などの取組を展開

◆交流イベントなどの展開

- ・「みるカフェ」や、障害のあるなしにかかわらず一緒にスポーツを楽しむアスリート交流会など、多様な人々が広く参画できる取組を展開
- ・ファミリー層や若者が集う商業施設などで障害者理解に関する啓発イベントを開催するとともに、動画・SNS等を活用した障害者への援助の方法などの普及啓発や、共生社会の理念に賛同する企業などの登録・公表を実施

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
共生社会の発信		応援アンバサダー、特設ホームページ ●「学ぼう！デフリンピック」公開 ●「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」公開 「サインエール」公開	●大会時の応援に活用
		「やさしい日本語」普及啓発フォーラム R5：視聴者数210人（ライブ配信） 心のバリアフリーサポート企業連携事業 R5：543件	
交流イベントなど	●みるカフェ	●みるカフェ（大学と連携）	障害者理解に関する啓発イベント（区部・市部各2回/年）



Topic

持続可能な社会に向けて

大会における**先進技術**の活用

大会で活用予定の「次世代型ソーラーセル」と「SAF」。いずれも持続可能な社会に向けて、今後の普及が期待されている先進技術です。

次世代型ソーラーセルは、「薄く軽くフレキシブル」な、日本生まれの太陽電池。従来では難しかった場所への設置が可能などの特徴を持っています。大会では、実用化に向けた実証として、国立競技場周辺の庭園灯などで活用を予定しています。

SAF (Sustainable Aviation Fuel) は、「持続可能な航空燃料」のこと。廃食用油などを原料とし、従来の化石燃料に比べてCO2削減効果が期待されるこの燃料を広くPRするため、東京2025世界陸上を契機とした廃食用油の回収キャンペーンを実施予定。

ご家庭の油が航空機の燃料に生まれ変わります！



次世代型ソーラーセルを活用した照明（イメージ）



廃食用油を航空燃料にリサイクル

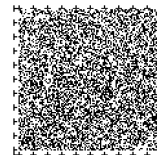
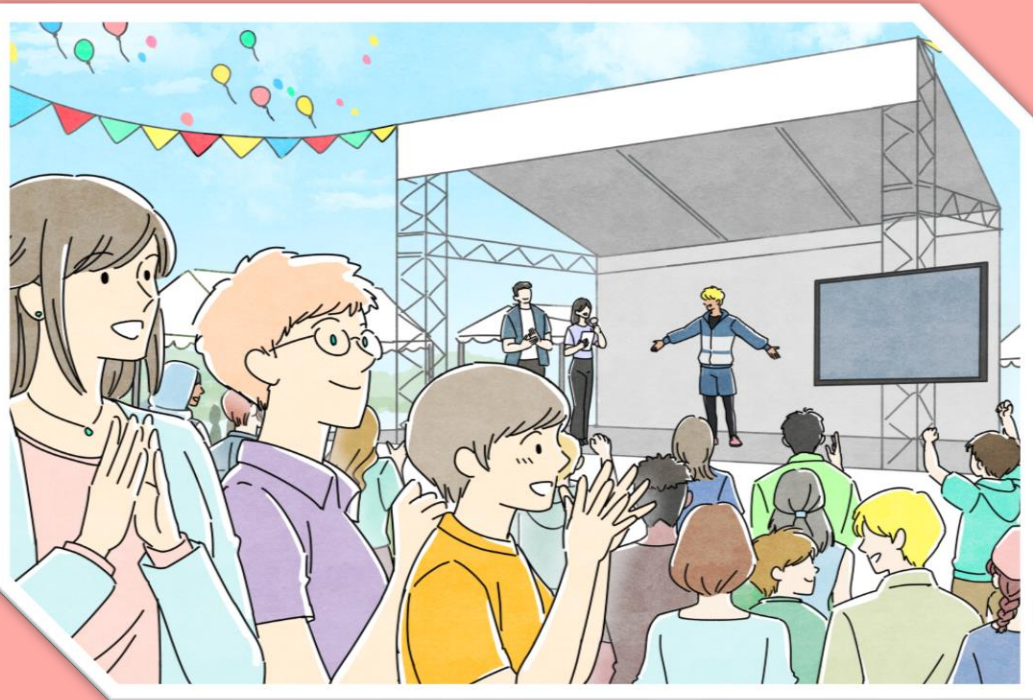


みんなで創る

力を合わせて大会を形作る

Action 9 Make it together 2025

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！



Action 9 Make it together 2025

【目指す姿（レガシー）】



- 東京2020大会を通じて広がったボランティア文化が深く根付き、一人ひとりが互いに支えあう社会づくりがさらに進捗
- 東京2025デフリンピックを通じて、認知度や競技レベルの向上など、デフスポーツの振興に貢献
- 大会を通じて、寄附文化が社会に一層浸透



©一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆多様な人々が両大会のボランティアとして活躍できる機会を提供
- ◆アスリートや障害のある人といった当事者をはじめ、子供たちや企業など、様々な人々と連携して大会を開催



分身ロボットのイメージ
(タブレットを通して遠隔操作)

Action 9 Make it together 2025

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

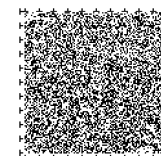
◆ボランティア文化の継承・発展

- ・東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）などを通じて、幅広い層に訴求するコンテンツや、ボランティア同士の交流・つながりを深める場を提供
- ・障害のあるなしや年齢、国籍などにかかわらず、多様な人々が大会のボランティアとして活躍できる機会を提供。両大会で合計約6,000人のボランティアが参画

◆様々な人々と一緒に創る大会

- ・デフアスリートやデフ競技団体の活動などを支援し、大会での活躍を後押し
- ・大会を支える人々の努力や、きこえない・きこえにくい人の社会活動の様子などを両大会の特設ホームページで発信
- ・大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレム、公式マスコット、メダルデザインを、アスリートや障害のある人、子供たちなど様々な人々と一緒に制作
- ・デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用
- ・会場に行くことが難しい重度障害などがある人も、遠隔から操作する分身ロボットを通して大会へ参画
- ・寄附などの環境を整え、多くの人々の参画を促進

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
ボランティア関係の取組		VLNの運営やイベントの開催など	
		各大会におけるボランティア募集●	●多様な人々がボランティアとして参画
様々な人々と一緒に創る		デフアスリートやデフ競技団体への支援	
			両大会で分身ロボットを活用●



Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

【目指す姿（レガシー）】



- 両大会をきっかけとしてスポーツへ関心を持つ人が増加
 - ・継続的な応援や運動の実践、健康づくりなどに貢献
- デフスポーツを含むパラスポーツの振興や幅広いバリアフリーが更に進捗
 - ・都立スポーツ施設や都立公園陸上競技場の施設改修などが進む



【取り組んでいくこと（アクション）】

- ◆様々な機会や媒体を通じて、両大会の魅力や特徴などを分かりやすく伝える
- ◆多様な主体やイベントなどと連携しながら、両大会への関心を高める取組を幅広く展開



区市町村と連携したイベントの様子

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

【主な取組の詳細や実績・スケジュール】

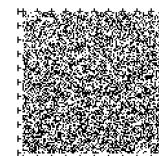
◆大会やスポーツで盛り上がる

- ・各大会への注目度が高まる開催100日前など節目の機会を捉え、様々な広報や気運醸成イベントなどを展開
- ・アスリートと子供たちとの交流や競技体験など、実際に両大会の特徴や魅力を感じられる取組を実施
- ・両大会の特設ホームページや、大会エンブレムなどを用いた様々なPRツールなどを通じて、大会の意義や魅力を効果的に発信するとともに、大会開催時の盛り上げにも活用
- ・東京2020大会を契機としたスポーツへの関心の高まりも踏まえ、より多くの方が気軽にスポーツに親しめるよう、都立スポーツ施設や都立公園陸上競技場の施設改修などを実施
- ・東京2025世界陸上期間中の子供向け陸上教室（国立競技場）及びスポーツへの関心喚起・都の魅力発信を行うイベント（都立明治公園・国立競技場外構など）や、東京2025デフリンピック期間中のパラスポーツ体験・交流イベント（都立駒沢オリンピック公園）など、各大会と相乗効果を発揮できるスポーツイベントを開催

◆様々な連携

- ・区市町村、関係団体などと連携し、大会の魅力などを幅広く発信
- ・「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」において、両大会をテーマとした意見交換を行うとともに、懇談会メンバー（パラ応援大使）による大会関連イベントへの参加を通じて、幅広い層へ情報発信

	令和5年度（実績）	令和6年度（見込み）	令和7年度（予定）
大会やスポーツの盛り上げ	各大会2年前の取組● デフリンピック認知度（都内） R5：14.8%	各大会1年前の取組● R6：39.0%（速報値）	●各大会節目の取組
	都立スポーツ施設や都立公園陸上競技場の施設改修など		
	スポーツ施設整備区市町村補助 R5：28件		
様々な連携	区市町村、関係団体等主催イベントへの両大会ブースの出展		
	R5：108回	R6：90回（12月末時点の実績）	



TOKYO FORWARD 2025 イベントガイド

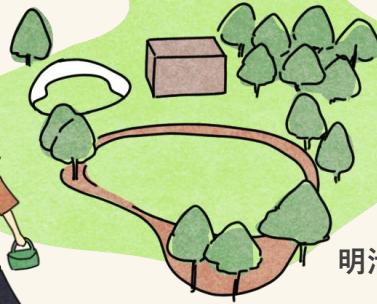
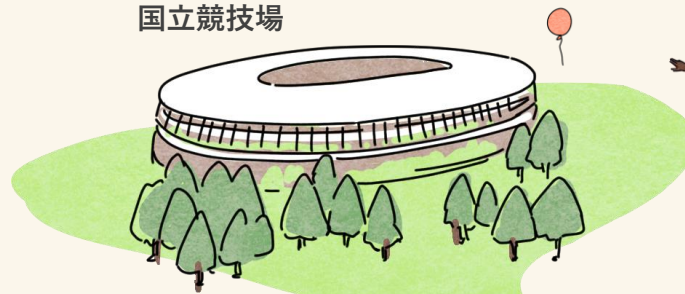
東京2025世界陸上 開催期間（2025年9月）



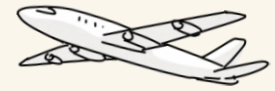
東京都庁



国立競技場



明治公園



行幸通り



東京都庁

展望室などにおいて、世界陸上・デフリンピックなどに関する展示を実施予定。

特に東京2025世界陸上の開催直前期から大会最終日までは、アスリートから寄贈されたウェアやシューズなどの展示を予定しています。

国立競技場及び周辺エリア

東京2020大会のメインスタジアムであった、国立競技場。東京2025世界陸上では全種目がここで行われ、世界のトップアスリートによる熱戦が繰り広げられます。

さらに国立競技場の外構部や隣接する明治公園では、大会期間中、スポーツへの関心を高めたり、都の多彩な魅力を伝えるイベントも開催予定。皆様のご来場をお待ちしています！

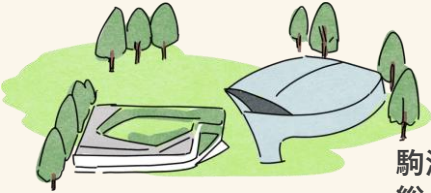
行幸通り

東京の玄関口・東京駅前にある行幸通り。東京2025世界陸上のマラソンコースにもなっているこの場所で、9月12日～14日の3日間、都内の祭り団体などによるパフォーマンスイベント「TOKYO わっしょい」を開催します。

TOKYO FORWARD 2025 イベントガイド

東京2025デフリンピック 開催期間（2025年11月）

武蔵野の森総合スポーツプラザ

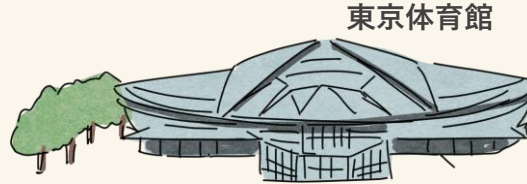


駒沢オリンピック公園
総合運動場



駒沢オリンピック公園
総合運動場

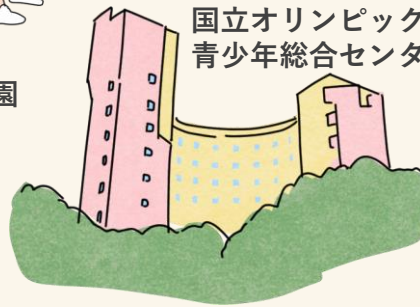
陸上、ハンドボール、バレーボールの競技会場。大会期間中には、デフスポーツを含む幅広いスポーツ体験やアスリート交流などが楽しめるイベントを開催します。



東京体育館

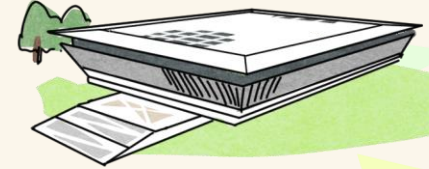


国立オリンピック記念
青少年総合センター



日比谷公園

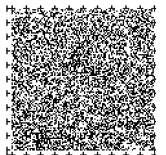
東京アクアティクスセンター



日比谷公園及び周辺エリア

オフィスビルや商業施設に囲まれた、緑あふれる日比谷公園。オリエンテーリングの競技会場でもあるこの公園やその周辺では、大会を契機に、UC技術の導入が進められています。

競技会場一覧は
こちら↓



ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ



令和7（2025）年1月発行

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部大会総合調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電 話 03(5388)3850
E-mail S1120907@section.metro.tokyo.jp

